

3 台風第19号災害からの復旧・復興及び国土強靱化について

長野県の状況

● 台風第19号による甚大な災害から、復旧・復興への第一歩を踏み出す

- ・ 台風第19号に伴う豪雨により、河川堤防の決壊や越水、住宅や下水道処理場の浸水、道路や鉄道の寸断など、甚大な被害が発生
- ・ この甚大な災害から、一日も早く復旧・復興を成し遂げ、日常生活を取り戻すことが最大の目標
- ・ 国の措置により、災害復旧に対する特別の財政援助や、国の代行による迅速な災害復旧が可能となった

取組

- **長野県強靱化計画に基づき、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を積極的に推進**
⇒ 長野県強靱化計画に5年間の整備目標を公表し、3か年緊急対策を活用して積極的に対策を実施中
- **発災直後から緊急調査を行い、応急復旧に着手するとともに災害査定に向けた準備を開始**
⇒ 県職員による調査のほか、TEC-FORCEの支援により迅速な調査を実施
- **復旧・復興に着実に取り組むため、台風第19号災害からの復旧・復興方針を策定**
⇒ 被災者の生活再建からインフラの復旧、さらに被災地の復興に向けた取組を提示



課題

- **道路、河川、砂防、下水道施設などの被災により県民生活に深刻な影響**
⇒ 早期の復旧・復興が必要
⇒ 再度災害防止のため、抜本的な対策が必要
⇒ 令和3年度以降も防災・減災対策を継続的に推進する必要
- **また、災害に結び付くインフラの老朽化も喫緊の課題**

点検の結果：修繕が必要な橋梁 約900橋、修繕費用 約270億円（従前の2倍）！！

- **経営基盤の弱い地域鉄道も被災。代替輸送・復旧費用が経営を圧迫**
⇒ 車両等老朽施設設備の更新にも影響⇒ 制度面・財政面での支援が必要
- **幹線鉄道の被災により、首都圏等との交通が遮断。経済・観光面に打撃**
⇒ 再度の災害防止、防災対策の強化等が必要



10月17日 仮堤防完成
千曲川堤防決壊（長野市穂保）

■今回大規模な災害が発生した千曲川をはじめ
犀川、天竜川について、日常的な河川管理、
洪水時の災害対応を的確に行う必要があるが
国管理区間と県管理区間が混在

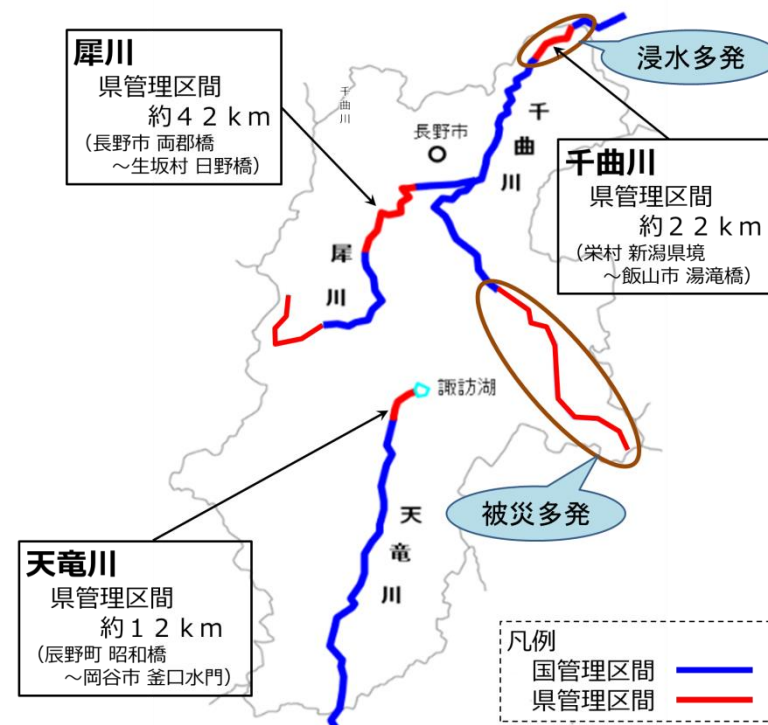
(いわゆる中抜け区間)

■被災箇所が膨大なため、市町村は緊急調査に
時間を要した。特に町村は技術職員が不足・
不在のため、技術的な支援を求める声多数



河川護岸の欠損と道路橋の損壊により鉄道が運休。
災害に強いインフラの整備が求められている。

「中抜け区間」について



提案・要望

1 防災・減災、国土強靱化の推進

- (1) 公共土木施設の迅速な復旧に向けて、復旧に必要な予算を十分に確保するとともに、再度災害防止のため、抜本的な対策を講じるための予算を確保すること。特に、県・市町村をあわせ災害復旧箇所が2,000か所余に及ぶことから、災害査定に係る測量・設計費用も補助対象とすること。
- (2) 道路の寸断により救助活動や物流に支障を来したことから、災害時も確実に機能する道路網の整備を推進すること。特に高度な技術力を要する国道153号伊駒アルプスロードは、権限代行によりその全線を整備すること。
- (3) 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」については、令和3年度以降も予算を別枠で確保すること。
- (4) インフラの老朽化対策については、防災・減災、国土強靱化の観点からも着実に進められるよう、新たな財源を確保し、財政支援を行うこと。
- (5) 地域鉄道事業者に対し、復旧費用、代替輸送費用及び安全安定輸送のための老朽化した車両や施設設備の更新に対する支援を確実に行うこと。
また、中央東線など基幹路線は、幹線鉄道ネットワーク構築の観点から、国家的見地に立って高速化を含む路線の強靱化を図ること。

2 千曲川、犀川、天竜川の国による一元管理

河川整備を促進し、抜本的な治水対策を進めるとともに、洪水時の災害対応を的確に行うため、千曲川、犀川、天竜川のいわゆる中抜け区間について、国による一元管理とすること。

3 TEC-FORCEの体制・機能の拡充・強化

今後の激甚な災害に備え、TEC-FORCEの体制・機能の拡充・強化を図ること。